初のICT出前授業

中部i―Con研

児童らがICT建機に試乗した

中部i―Construction研究会（事務局・中部地方整備局企画部施工企画課）所属のICTアドバイザーによる企画の下、浜松市立初生小学校6年生を対象としたICT出前授業が行われた。フジヤマ（浜松市中区）とアタプト（同北区）が共催し、不二総合コンサルタント（同北区）、シーティーエス浜松支店（同東区）、コマツカスタマーサポート中部カンパニー（静岡市駿河区）、白鳥建設（静岡市葵区）などが協力した。

出前授業は同会初の試み。当日は児童の目の前にブルドーザーや油圧ショベル、ローラーなどのICT建機がずらりと並んだ。3次元設計データに基づき「魔法のように」正確に施工するICT建機を目の当たりにし、児童らは「ICTがあれば何でもできそう」と目を輝かせた。また、ドローンやレーザースキャナ、MMSによる3次元データ取得などの測量・計測技術についても実機を見せながら解説。「建設の仕事は規模が大きくて、新しい技術もたくさんあるので未来が楽しみになる」と話す児童もいた。

企画に携わったICTアドバイザーの長谷川翔大氏（フジヤマ）は「ICTを活用した土木の仕事に興味を持ってもらうきっかけになればうれしい」と活動を振り返った。

官公需受注検査行う

県消防設備保守点検業協組

静岡県消防設備保守点検業協同組合（西川和宏理事長）は、コロナ禍を踏まえ検査日程を分散（10月中に5日間）して、静岡市内の組合事務所などで県や市から共同受注した消防用設備（防火設備含む場合あり）点検検査業務について検査を実施した＝写真。

対象物件は16件。検査では、業務に精通する検査員が幹事会社の担当者が持参した点検検査結果報告書や契約書などの関係書類に基づき、点検検査の実施状況や書類の記載内容に不備がないかを検査した。

検査を完了した小田巻検査員長は「おおむね良好だった。引き続き法令順守の点検検査に努められたい」と総括した。

毎年、年2回実施される（前期は書類・後期は現場）検査は、国から官公需適格組合の認定を受けた県知事認可の協同組合として法律（官公需法）に基づき実施されるもの。発注官庁による点検検査実施報告の確認に、法律に基づく検査実施が加わった安全・安心サービスの提供は、県民の生命・財産を火災から守る心強い「県民セーフティネット」となっている。

県立短大で合同出前講座

県設備設計協と県設備協

静岡県設備設計協会（神谷保孝会長）と静岡県設備協会（藤田良彦会長）は10月27日、静岡市清水区の県立短期大学校で合同の出前講座を行った＝写真。建築設備科と電気技術科の1、2年生約60人が聴講した。静岡県交通基盤部設備課の職員も参加した。

静岡県設備設計協会の川端猛貞理事と同校教務課の佐野賢治班長があいさつした後、座学では、コバヤシ設備設計事務所（静岡市駿河区）の小林康秀代表と、ツジシステムデザイン掛川事務所（掛川市）の清水映吾所長が同校の給排水衛生設備や電気設備などを解説した。

その後、同校で施工中の多目的実習棟新築工事を担当する東海電気工業所（静岡市葵区）と鎌田配管工事店（静岡市駿河区）の現場を見学した。

14日にEA21静岡県大会

県環境資源協会

静岡県環境資源協会は、14日午後1時30分から、静岡市駿河区のグランシップで「エコアクション21静岡県大会」を開く。

「EA21の取り組みによる脱炭素経営・SDGs等への対応（仮）」の演題で同協会の平井一之専務理事が、「金融機関から見る環境経営の必要性について（仮）」の演題で三井住友信託銀行静岡支店の渡辺博明次長兼法人営業第一課長が、それぞれ講演を行う。

事例発表では、サツマ電機の梶川久美子社長、駿遠三菱自動車販売の大畑勝慶常務、三和建商経営企画室の松下和弘氏が登壇する。

また、エコアクション21に関する疑問や課題解決のため、会場からの質疑に審査員が応答するコーナーも設ける。

参加の問い合わせ、申込先は事務局　電話054（252）9023。

地域NEWS

東部地区

三建　現地合同調整所運営訓練に参加

パトロール結果を報告する会員

三島建設業協会（小野徹会長）は、国土交通省沼津河川国道事務所が実施する現地合同調整所運営訓練に参加し、災害時の道路パトロール手順や連絡体制などについて確認した。

訓練には、国、県、市、自衛隊、消防、警察に加えて地元建設業として同協会が参加。南海トラフ巨大地震の発生時に、道の駅伊豆月ケ瀬が現地前線拠点になる想定で、災害対策本部や現地の立ち上げ検証、道路パトロールと道路啓開の手順などを確認した。

同協会は、会員それぞれがあらかじめ定められた緊急輸送路をパトロールし、各地の被害状況を対策本部に報告する訓練を行った。また、現地合同調整会議に初頭から出席し、被害状況を各機関で共有する訓練も実施した。

訓練後、同協会の土屋龍太郎土木・災害対策委員長は「災害時、対策本部との連絡方法が大きな課題だった。道の駅伊豆月ケ瀬が前線拠点になれば、道路啓開などの活動がより迅速、的確になる。訓練で得た情報、経験を会員企業のBCPに反映し、初動の対応力の強化につなげていきたい」と話した。

三島南高生徒が静コンを見学

15人受け入れ

静岡コンサルタント（三島市、森崎祐治社長）は10月26日、企業見学ツアーで三島南高校1年生15人の訪問を受け入れた＝写真。

見学会では、同社社員が建設コンサルタント業界の概要や、業務と地域との関わりなどについて説明した他、社内を案内しながら各部署の業務内容などを紹介した。

同社では、若い世代に仕事のやりがいや業界の役割を知ってもらおうと、学校の職場体験学習などにも協力している。

静コン　北上中の生徒が職場体験学習

静岡コンサルタント（三島市、森崎祐治社長）は10月26、27日の2日間、北上中学校の職場体験学習で、生徒1人を受け入れた。

1日目は建設コンサルタント業界や同社の仕事内容などについて学んだ他、同社が携わった土木構造物の見学や、ドローンを体験した。2日目は同社社員の指導の下、CAD・コンピューターグラフィックなどを体験した＝写真。

同社では例年、学校の職場体験学習に協力している。

地域貢献

東部地区

山王公園で清掃活動

大岡建設工業

大岡建設工業（沼津市、内野聡社長）は、地域貢献活動として、沼津市平町の山王公園で清掃活動を実施した＝写真。

社員12人が参加し、落ち葉やごみ拾い、除草などの清掃活動を行った。参加者は「散歩していた住民から感謝の言葉を掛けてもらい、とても励みになった。近隣の皆さんが気持ち良く公園を利用できるように今後も継続していきたい」と話した。

献血に56人協力

土屋建設とろっぽう会

土屋建設（伊豆の国市、土屋龍太郎社長）と土屋建設協力会ろっぽう会（古藤田博澄会長）は、同社敷地内駐車場で、移動採血車を停車して献血活動を行い、56人が献血に協力した＝写真。

土屋建設の土屋昭専務は、「例年実施している献血事業だが、今日は提供者でもいつ身近で必要になるか分からない。『できることは全部やる』を合言葉に、さらなる地域貢献に努めていく」と話していた。

なお、献血を申し込んだ人数は会員、社員、市民など計81人だった。